

平成 30 年度 第 1 回高岡市総合教育会議 会議録

I 日時 平成 30 年 8 月 7 日（火）午前 9 時～午前 10 時 35 分

II 場所 高岡市役所 3 階 庁議室

III 出席者 高岡市長 高橋 正樹
高岡市教育委員会
教育長 米谷 和也
教育委員 河田 悦子
教育委員 森 美和

事務局関係

総務部

次長・総務課長 戸田 龍太郎

総務課係長 木村 文徳

教育委員会事務局

教育次長・学校教育課長 高松 毅

参与 川辺 勝治

教育総務課長 藤田 辰昭

教育総務課副課長 島田 輝

教育総務課係長 水上 暁

IV 傍聴者 なし

V 協議の概要

1 開会

・市長あいさつ

【高橋市長】

平成 30 年度に入り、色々なことが動き出している。財政健全化に向けてのプログラムを現在推進中であり、必要な事業についてそれぞれ取り組みを進めている一方で、様々な事業の見直しについて着手を始めているところである。引き続きプログラムに基づいた財政健全化への推進を進めていかなければいけないと考えている。

そういった中で、教育委員会の所管事項についても、それぞれの課題について議論いただいていると思う。本日は、市の教育将来構想について、現在までの検討状況を聞かせていただきたい。

また、今夏の異常な暑さの中での教育環境についても課題にあがっている。あわせて、小中学校のカリキュラムについても、英語教育や ICT 教育といった新しい教育

テーマに取り組むという課題もある。これらについても、教育委員会と議論していきたいと考えている。

2 協議事項

(1) 高岡市教育将来構想検討会議のこれまでの検討内容の取りまとめについて

(教育長及び教育委員会事務局教育総務課 説明)

【市長】

まず、今回の検討内容の取りまとめの主要部分である五位中学校区の3小学校の統合について、各委員のご意見をお伺いしたい。

【河田委員】

これまでの検討内容の取りまとめには、3小学校の再編統合に関して4点記載があるが、全て賛成である。再編する場合は、特に地域の合意が大変大事だと思う。また、長谷田委員が以前から言っておられるが、学校を核とした地域づくりの考え方はとても大事であるとする。学校は、かつて地域のコミュニティーセンターであり、なおかつ地域の精神・生活の拠り所のような場所であったと思う。それが地域コミュニティーや時代の変化に伴い、学校の在り方も変わってきており、昔は学校が一番幸せな場所だったが、今は、居住空間としても精神的にも学校が一番ではなくなってきていると感じる。しかし、今の時代だからこそ、新たにコミュニティーセンターとしての役割としての必要性が大きくなってきているのではないかと思う。そうした意味で、地域の合意があったことは、非常に大きい事だと思うため、新しい地域づくりを念頭に置いて、統合するからには、モデルとなるようなものを大胆にかつ早くお示しできればと思う。

また、一体であることを体感できることも大事であり、中学校との施設の一体化についても重要であるとする。

【森委員】

3校の再編統合に関しては、賛成である。私が住んでいる地区では、子どもが少なくなってきており、私の頃には1学年4クラスあったが、今は1学年1クラスと、小規模な学校になっている。幸いなことに、保育園や高齢者施設が小学校の近隣にあるため、総合的な学習の時間に保育園や高齢者施設を訪れ、園児や高齢者とどのようにコミュニケーションをとるかといった学習をするなど、色々な経験をさせていただいている。地域においても昔から住んでいる人と新たに市外や県外から来た若い世代の方がおられるが、納涼祭などでは、赤ちゃんから高齢者まで、公民館で2時間から3時間一緒に時間を過ごし、どの子どもがどの家の子どもかを皆さん分かって接して下さっている。また、そうした場で子どもが騒いだり場を乱すようなことがあればしっかり叱って下さることもありがたい。こうしたことが、これからは大事ではないかと思う。1回の行事の中だけではなく、日常生活の中でなされれば、世代を超えたコミュニケーションの在り方も自然に身に付くのではないか。

学校統合には時間がかかることを会議を通じ分かったが、小規模の学校の子どもの保護者ほど、早く統合が進んでほしいという思いが強いと思う。できるだけ早く方向性を示し、スピーディーに事を運ぶことで、これがモデルとなり、他の校区にも広がっていけばよいと思う。

【教育長】

教育将来構想検討会議での意見の中では、教育環境の整備を速やかに進めてほしいという意見が大半であった。また、五位中学校区については、地元の了解もいただいているので、早急にとりかかってほしいとの意見もいただいた。

学校は、地域の核として長い歴史を積み重ねてきている。そのため、地域から学校が無くなることは、地域の方にとって寂しい思いをされることになるため、そうした地域の方の思いを踏まえながら、新しい形での地域の核、高岡市が提唱しているコンパクト・アンド・ネットワークにおける1つの拠り所となるような場所として、統合校を整備させていただきたい。また、今後、学校が無くなる地域においても、公民館など地域の拠り所となる場所については、市長にもお願いしながら、一定の役割を持たせるように、教育委員会としても取り組んでいきたいと考えている。

小中一貫教育において、一番期待できるのは、教員の指導力の向上であると考えている。現在、小学校・中学校・高等学校とあるが、それぞれの段階で子どもをみているので、学校単位で完結するような指導をしている。しかしながら、子どもの成長は連続していることから、切れ目のない教育を行う視点を持った教員を育てていくことが必要だと考えている。

【市長】

五位中学校区の再編については、委員の皆さんも賛成ということで、受け止めさせていただいた。教育長の発言にあった教員の指導力向上については、ぜひお願いしたい。子ども達は、千差万別で体力的にも精神的にも成長の過程にあり、小・中学校の枠を超えて子ども達の個性に応じて発達をしっかりと支えていくことができるようになればと思う。

また、学校を地域の核にという話があったが、これは様々な行政分野と関わって行くことになるため、教育委員会と連携しながら、地域の活動が学校という単位を中心に組み込まれるようにしていきたいと考える。子ども達を通じて、保護者の方々が学校に集まる機会は多いと思うので、地域の様々な活動と学校との連携も深めていかなければいけないと考える。

また、現在、学校単位で行われている地域活動が、学校再編によってどのように変化するのかについて今後さらに精査し、地域活動が活性化する方策について検討していきたい。

学校が持っている教育以外の機能についても留意しながら、今後、再編統合が子ども達のため、教育のためはもちろんのこと、地域全体の活力のためにも良い形で展開するよう、行政も現場も努力していく必要がある。

それでは、これまでの議論について確認したい。

まず、五位中学校区の3小学校については、地域の合意もあることから統合小学校の設置に向け早急に整備を進めること。小学校については、今後、進めていこうとしている小中一貫教育の中でモデル的な姿を目指すこととし、将来的には中学校との施設の一体化も視野に入れ、五位中学校の隣接地に建設すること。3小学校の統合を進めるにあたっては、児童の環境変化に対応するため、より規模の小さい小学校を先行して統合すること。そして、その後、速やかに3小学校を統合するよう、段階的に進めていくこと。また、通学距離が遠くなる児童もいるため、スクールバス等の運行について配慮すること

以上のような提案だったかと思うので、この方向で教育委員会で準備を進めていただきたいと思います。私としても統合校の建設に向け財源の見通しをつけ、できるだけ早く着手できるよう努めてまいりたい。校舎の在り方や技術的な検討も含め進め方については、財政当局等と詰めていただきたいと思います。

また、今後、小中連携一貫教育を推進していくことになるが、そのメリットが十分に発揮されるよう、教育内容についても引き続き検討いただきたいと思います。

小規模校については、今後、複数の複式学級となることが見込まれる石堤小学校については、交友を広め切磋琢磨できる一定の学校規模を確保できるよう、また、再編統合による急激な環境変化を緩和するよう段階的な統合を進めることについて保護者や地域に丁寧な説明を行い、理解が得られるよう、教育委員会において一層の配慮をお願いしたい。

【河田委員】

以前実施した「高岡市の教育充実に係る意見交換会」において、五位中学校区以外にも、統合を進めてほしいという中学校区がいくつかあった。児童数が少ない小学校のある中学校区の中にそのような声があがっていたと思う。統合の方向の案が出されている校区についても、各地域の特色を生かしながら、進めていければと思う。

【森委員】

地域でそのような声があがっている間に、まずは方向性についてきっちりと保護者や地域の方に分かっていたことが必要であると思う。いつになるのかというような状態が続くと関心が薄れてしまうことも考えられるので、この時期だからこそ、方向性を固めてもらいたい。

【教育長】

年内には高岡市内全体の学校のあり方について取りまとめをするよう、市長から指示をいただいているため、全体の計画について、早急に対応させていただきたい。

【市長】

地域によって議論の熟度に差があるかもしれないため、各地域で再編統合の課題について問題意識を持って考えていただけるよう、教育委員会において取り組んでいただきたいと思います。

【河田委員】

県内には、学制開始直後の明治6年に創校した学校が多くある。一番初めにできた学校であるという誇りがそれぞれの地域にはあるが、それでもなお、統合を考えられた地域の方の想いはしっかり受け止めたいと思う。

また、高岡市が選ばれるまちになるためのポイントは、各地域の施設・ハード的な環境の充実と、そこに住む人の魅力ではないかと思う。いかに自分たちの住んでいる地域に誇りを持っているかという思いをつなげ広げていく中から、魅力が生まれてくるのではないと考える。そういう意味では、自分たちの地域を大事にし、誇りに思っているからこそ、これからの子ども達のことを考え、新しい人づくりを念頭において、住民の方から統合の同意をいただけているということをお大事にしていきたい。

【市長】

市としても、政策の柱としてまちづくり、ひとづくり、仕事づくりを掲げている。ひとづくりについては、色々な意味合いのひとづくりがあるが、特に将来を担う子ども達をいかに育てるかということが、3つの柱の中でも力を入れていかなければならないことと考えている。

(2) 学校環境の整備について

(ア) 小・中学校の特別教室へのエアコンの緊急導入について

(教育委員会事務局教育総務課 説明)

【市長】

私も記者発表を通じ、エアコンの緊急整備についての報告をさせていただいたところである。今年は大変暑い夏で、自然環境が変化している中で、今何ができるのかということをお教育委員会でも検討いただいた中で、まずはできることをということで2学期からの導入となった。

【教育長】

特別教室へのエアコンの導入については、緊急の手当ができたことをありがたく思っており、各学校も大変喜んでおる。教育委員会としては、今後の課題である普通教室への導入については、環境を整えば、ご相談させていただきたい。

【市長】

エアコンの設置については、将来構想検討会議でもご議論いただいていることと思う。今年の夏は非常に暑い状況にあることから、今回の緊急導入を各学校現場で有効に活用していただければと思う。

普通教室への設置についても、大きな自然環境の変化の中で、あり方が見直されよ

うとしている。国においても支援措置について検討いただいているようなので、その動向も注視してタイミングを失することのないよう、より良い教育環境の実現を図っていききたい。

(イ) 新学習指導要領の実施に向けたICT環境等の整備について

(教育委員会事務局教育総務課 説明)

【市長】

既存のデスクトップパソコンのリース終了に伴う更新に合わせた導入とのことだが、全校に導入するまでに何年かかるのか。

【教育長】

今年度は既存の予算の枠の中で対応するというので、従来のリースを活用しながら各学校にタブレットを配置していくこととしており、このペースでいくと4年かかる見込みである。

国では、新しい学習指導要領の実施も踏まえ、このような学校ICTの環境整備プランを示しているため、少しでも予算の割振りを検討させていただき、国補助など活用できるものがあれば、活用していきたい。

【市長】

今までのパソコンの使い方から、パソコン、インターネット、タブレットといった環境を活用した学習へと質的転換が図られていると思う。そのためには、教える側のスキルや授業の組み立て方の工夫が必要になってくると思うので、対応をお願いしたい。

【教育長】

ご指摘の通り、質的な転換を図ることが学習指導要領の方向性だと理解している。これまでアプリやプログラム、機器を使えば良いということで進んできたが、将来のIT人材育成の観点からもプログラムの・論理的思考ができる子どもを育てたいということがある。

現在、中学校では、技術家庭の時間に全員がプログラムを作ってロボットを動かす授業も行っているが、このようなことを小学校で行うことは、情報格差の解消にもつながり、今後、昔でいう「読み・書き・そろばん」の1つになっていくのではないかと考えているので、本市としても機会を逃すことなく取り組んでいきたい。

(3) その他

(ア) フッ化物洗口の実施に向けた準備状況について

(教育委員会事務局学校教育課 説明)

【教育長】

全校での実施に向けて理解を広めていきたいと考えている。本市は、虫歯の保有率

が県内で最も高い状況にある。子ども達の心身の健康は重要であるため、将来に渡って丈夫な歯が持てるよう努めてまいりたい。

【市長】

実施状況や効果を踏まえながら対応していただきたい。

(イ) 今後の部活動の在り方について

(教育委員会事務局学校教育課 説明)

【市長】

市のガイドラインを示すのは今年度中か。

【事務局】

県が間もなく公表することから、市としてはそれを踏まえ、なるべく早く示したいと考えている。

なお、現在も土日を含め週に1日は必ず休み、大会等が重なった場合には、平日で代替するなど、適切に休養日が確保されるよう実施しているところである。

【教育長】

昨年度も最低週1日は休養日を設けることについて、各学校の校長に指示したところである。

【市長】

新しい指導員の配置など、部活動の環境が子ども達の健やかな成長のためのものとなるよう適切に対応をお願いしたい。

【教育長】

今年度は、高岡市体育協会に、将来のアスリートを目指す子ども達への対応について、市内の競技団体と連携を図る方策の検討について依頼を行ったところである。

【市長】

本日の議題は以上である。色々と議論いただいたが、学校の再編、とりわけ五位中学校区への対応については、教育委員会でしかるべき対応をされるかと思う。また、地域の核という点については、市の各部局の行政分野との関連もあるかと思うので、教育委員会と各部局との連携が必要になってくるかと思う。

その他の事案についても、それぞれ適切に進めていただいていると思うので、引き続きよろしくをお願いしたい。

以上